

健康メモ

切らずに治す硬化療法

広島市医師会理事
中西医医院院長 中西 幸造

内痔核の治療

は手術による結紮+切除が標準とされています



が、麻酔と入院を必要とし、術後の疼痛もあり患者さんにとってはいやな治療です。社会的にも、家庭の事情で入院治療ができない患者さんもあります。

最近、内痔核の治療に入院しなくても外来で済む低侵襲治療が注目されてきました。それがジオンという薬を使った硬化療法です。硬化療法

とは痔核に流入する血管の周囲や痔核の奥に硬化剤を注入する注射療法で、痔を硬化させて治します。当院ではこれまで硬化剤として、5%フ

エノールを含んだオイルで七年間に約二〇〇〇例に治療してそれなりの効果は体験してきましたが、05年3月に発売された硫酸アルミニウムカリウムとタンニン酸を成分とするジオンを使用するようになり、硬化療法の治療成績がより向上した感があります。治療は麻酔もなしでジオン注射液を一つの痔核の四カ所に注射して、痔に流れ込む血液量を減らして痔を硬化させます。さらに粘膜を固定することができまので脱出しなくなり。それによって手術と同程度の治療効果があります。この硬化療法は保険も効きますし、日帰り手術も可能です。当院ではより

正確に硬化剤を注入する方法にモリコーンという特殊な肛門鏡を使用しています。この器械には痔動脈の位置を音で知らせるドプラー血流計が埋め込まれており、硬化剤であるジオンを確実に痔動脈周囲に注入できます。従来の硬化療法は痔の中に入れていたため、痛みや腫れがありました。この器械を使うことで無痛領域の直腸粘膜下に確実に安全に注入できます。いまでは痔の治療にモリコーン+ジオン硬化療法を主体に行っており、現在までに約一〇〇〇例の実績があります。痔核を切らずに治す治療が可能となっておりますので、こわがらず肛門科を受診してください。

